





Historia de las Migraciones al Exterior

History of Overseas Migration
Historia das Migrações ao Exterior

History

Dedicado a todos los japoneses
que contribuyeron en la construcción de las
civilizaciones en las Américas

Dedicado a todos los japoneses
que contribuyeron en la construcción de las
civilizaciones en las Américas

Dedicado a todos los japoneses
que contribuyeron en la construcción de las
civilizaciones en las Américas

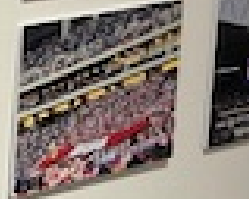
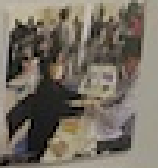
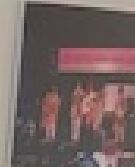
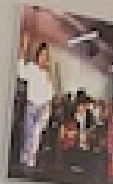
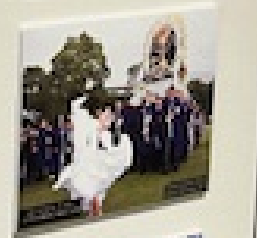
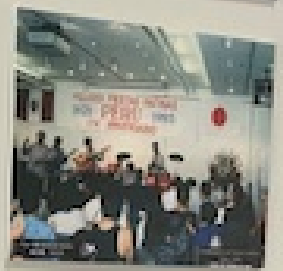
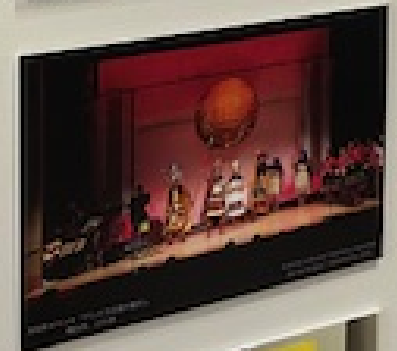
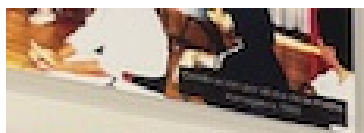
Historia de las
Migraciones al Exterior
Historia das Migrações

REMEMBRANZA
NOMBRE DEL EXHIBICIONISTA
NOMBRE DEL EXHIBICIONISTA
NOMBRE DEL EXHIBICIONISTA

History of Overseas Migration
Historia das Migrações ao Exterior

HISTORIA





年表

在日ペルー人社会の35年

年	在日ペルー人社会の動き	外国人受入・多文化共生に関する動き
1989	ペルー国籍者の登録者数が前年比47%と急激に増加。 Convenio Cooperación, 後の「キョウゴイ」設立。	入管法改正に向け国会で議論が展開。12月に改正入管法が成立。
1990	ペルー国籍者の外国人登録者数が初めて1万人を超える。 ペルー-日本人連携事業団が徳島県高松市に開設される。 ペルーの独立記念日を扱うイベントが初めて日本で開催される。	改正入管法施行(5月)、入管法施行に先立ち、5月24日付登録者数表により、日本2都に居住者の在留資格を交付することが可能に。
1991	財団法人海外日本人協会内に「日本人相談センター」が開設される。	外国人労働者受入制度・研修制度の両方を運営・運営強化に専念することを目的に国際研修協力機構が設立される。
1992	ペルー国籍者の外国人登録者数が初めて2万人を超える。日本初のペルー料理店アルコイラス開設。日本初のラテン系雑誌「KYODAIマガジン」発刊。	
1993	三菱通商フットボールクラブ(現「浦和レッズ」)に日本ペルー人選手 Edwin Uchana が所属。	外国人労働者受入制度が始まる。
1994	月刊雑誌「メルカド・ラティノ」発刊(2021年5月からオンライン版)。	
1995		国神道館大震災をきっかけに「やさしい日本語」が考案される。
1996		
1997	ペルー国籍者の外国人登録者数が初めて4万人を超える。	国際研修制度の実施期間が2年に延長。
1998	在東京ペルー総領事館開設。	
1999	埼玉県入間市でペルー移民100周年記念祭「ペルー文化の日」が開催される。この時初めて国際研修事業が開始される。 NPO法人日本ペルー共生協会 「Asociación Peruana Japonés de Integración Social」設立。	
2000		
2001	ペルー国籍者の外国人登録者数が初めて5万人を超える。	高松市で「外国人居住都市公同推進会議」が初めて行われ、「高松言葉及び慣習」を創刊。のちに、研修生、研修生など5都府に申し入れを行う。
2002		
2003	ペルー教育協同学校ムンデ・デアレグリア学校発刊。	
2004	ムンデ・デアレグリア学校高松系外国人学校で初めて各種学校に認可される。	高松議が「外国人受け入れ問題に関する調査」を発表。
2005	ひょうごラテンアメリカ情報誌「Latin-a」発刊。	
2006		国務省より地方公共団体における多文化共生の推進に関する指針・計画の策定に関するよう「地域における多文化共生推進プラン」策定。
2007	第1回世界ペルー機関連盟(FIMPI)の国際フォーラムを東京で開催(1月)。	
2008	在名古屋ペルー総領事館開設。リーマンショックにより失業率増、ペルーに帰国する者も。	日本-インドネシア経済連携協定(TPA)に基づく 研修生-合資格修士候補者受入れ開始。留学生3万人計画発表。
2009		日本-フィリピン経済連携協定(TPA)に基づく 研修生-合資格修士候補者受入れ開始。外国人労働制度廃止。
2010		日本定住外国人労働に関する基本指針の策定。 改正入管法の施行、在留資格「技能実習」が創設される。
2011	横浜赤レンガ倉庫で第1回日本大会及チャリティイベントとして「ペルーフェスティバル2011コンティンゴ・パボロン」を行う。	
2012	第1回 世界ペルー機関連盟(FIMPI)の国際フォーラムを東京で開催(11月)。	
2013	横浜赤レンガ倉庫で第1回ペルーフェスティバル開催。	
2014	在名古屋ペルー総領事館で行われた「海外在住ペルー人の日」式典にて 海外在住の大規模クオテナ員が表彰される。	
2015	福清県大支那、マチュピチュ村との友好提携開始。 高松市で「大東ペルーフェスティバル」初開催。	外国人受け入れ・共生に関する関係府会議員が開設される。
2016	代々木公園で「おいしいペルー」が開催。	
2017	日本赤松園でペルー・ナショナルフェスティバルが開催。 KYODAI主催のペルーフェスティバル2017が新会場で開催。	留学生3万人計画達成。
2018		日本4都の共同推進を促める新受入制度(日本4都ビザ)受入開始。
2019	ペルー-日本人連携(20周年)-2019年日本ペルー交流年記念。	在留資格「特定技能」受入開始。
2020	在名古屋ペルー総領事館で「海外在住ペルー人の日」式典にて 海外在住の国際クオテナ・オルナチが表彰される。	
2021	ペルー共和国大使館でペルー独立200周年セレブレーション写真展。	
2022	日本ペルー人の初本編演「ペレン・グリス・ユニバース」2022日本代表に。	「外国人との共生社会実現に向けたロードマップ」を策定。
2023	日本ペルー国際交流立50周年記念。	
2024	ペルー大使館、総領事館を中心に在日ペルー人社会の周年を記念した イベントが行われる。ひょうごラテンコミュニティ代表大規模クオテナ員が、 2024年度「海外で活躍するペルー女性」として、ペルーの発展より表彰される。	高松市 外国人との共生に係る関係府会として、毎年1月を 「ライフ・イン・ペルー」国際連携月間」と制定。 「高松宣言」の創設等を促す改正入管法成立。

※ペルー-共生協が毎年10月10日を「海外在住ペルー人の日」とし、在名古屋ペルー大使館でペルー文化の普及や交流活動を行い、発展を遂げたペルー人社会を表彰している。

ペルー・日本 友好の懸け橋

~ Mensajeros de la amistad peruano japonesa ~

日本で生まれ、あるいは幼少期に来日し、日本で教育を受け、成長し現在日本やペルー社会で活躍する方々から次世代を担うペルー人の皆さんへのメッセージをいただきました。



Photo: Eduardo Azua

小波津 ホセ
NPO理事長

ペルー共和国リマ市生まれ、1992年に来日。
主にペルー人第2世代以降に関する活動をペルーと日本で実施。
ペルーではリーマンショックにより深刻化するを得なかった経済危機・雇用への支援活動を行う。日本では、企業にて働き、大学で非常勤として教鞭をとる傍ら、日本ペルー共生協会(JAMP)で理事長を務め、難民スペイン語教室、学業支援、文化講座や英語講座などを実施。
国際学博士号を履得てからは、在日ペルー人およびペルーの日本人に関する研究もしている。

多文化共生社会の one of themではなく、在日ペルー人としての日本人、そしてペルー人のレガシー(遺産)を大切に、夢に向かう皆さまを応援しています。



菊田 モニカ
プロダンサー

沖縄県生まれ、小中高を日本で過ごす。
2014年ペルーに留学した際、伝統舞踊「マツネラ」に出会う。
世界正産を目指しながら、プロダンサーとしても活動中。
世界正産が大きな目標だが、その先には、日本の皆さんがマツネラを通してペルーを好きになり、憧れを持ってほしい、いつか行きたい国になってほしいという思いがある。
マツネラを通して、両国を繋げ、世界大会の応募賞の一角を日本の国旗で飾るのが大きな夢だと語る。

在日ペルー人の皆さんは、日本に信みながらも母国の文化を大切にしていますよね。ペルーは食も文化も本当に豊かな国だと実感しています。これからもペルーの素晴らしい文化をどんどん発見し、日本の皆さんにアピールしてください！ Viva el Perú!



相沢 正雄
記者

ペルー共和国リマ市生まれ、1998年に来日。
株式会社Alpaca Corporation(自動車販売、保険代理、不動産)や株式会社Sena Corporation(介護サービス)を設立。
上野新聞オビニオン委員や伊勢崎市多文化共生キーパーソンとして活動。
両国を繋ぐ文化交流やビジネス支援活動を行い、多文化共生の発展、また、より多様な文化を日本に広め、両国の関係をさらに強固にすることを目標としている。

自分たちのルーツを大切にしながら、日本社会でも自信を持って活躍して下さい。あなたたちの努力が、両国の懸け橋となることを願っています。



木村 さおり サブリナバルトロ
会社員(多文化共生関連事業)

ペルー共和国イキトス市生まれ、ペルーとブラジルを行き来する生活を送る。
2001年に初来日後、翌年には東京へ移住する。
2006年に再来日し、小(通学から)中高時代を日本で過ごす。
2018年には、ルーツ探しの旅で東京発祥をする。多様なバックグラウンドをもつ人が集らしやすい会社になるようにしたいとの思いから、日本人としての視点を見かしながら、外国ルーツ従業員の支援や多文化共生に関わる仕事に携わっている。

日本人として、これまでの歴史を知ることによって自分のルーツの大切さを知りました。皆さんにもご自身の日本人としてのルーツやアイデンティティを大切にしてほしいと思っています。自分らしく、好きな自分でいられるよう生きていきましょう。